

「平成27年度全国学力・学習状況調査及び岡山県学力・学習状況調査結果」について

1 調査の実施

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査日

平成27年4月21日（火）

(3) 本市の参加状況

○全国学力・学習状況踏査 <県：小学校16, 743人 中学校16, 690人>

	参加学校数	参加人数
平成27年度	小学校14校	小学校6年生 467人
	中学校7校	中学校3年生 449人

○岡山県学力・学習状況調査 <県：中学校16, 606人>

	参加学校数	参加人数
平成27年度	中学校7校	中学校1年生 441人

2 本市の学力状況について

(1) 全国学力・学習状況踏査

H27	小国A	小国B	小算A	小算B	小理	小全体	中国A	中国B	中数A	中数B	中理	中全体
玉野市	68.3	62.6	74.4	44.9	61.5	62.3	74.9	64.2	61.4	36.9	50.3	57.5
岡山県	69.2	64.5	75.2	44.8	59.9	62.7	74.8	63.5	62.9	38.3	51.5	58.2
全国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8	63.3	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0	60.1
県との差	-0.9	-1.9	-0.8	+0.1	+1.6	-0.4	+0.1	+0.7	-1.5	-1.4	-1.2	-0.7

○平成26年度の県平均との差

県との差	+1.7	+2.4	+1.5	+0.8		+1.6	+1.5	+1.5	-0.7	-2		+0.1
------	------	------	------	------	--	------	------	------	------	----	--	------

- 小学校においては、全教科で県平均を上回っていた昨年度から見ると、算数B、理科においては県平均を上回るにとどまり、全体的には、県平均を若干下回った。
- 中学校においては、昨年同様、国語A・Bは県平均を上回ったが、数学A・Bは全国・県平均を下回った。数学Aでは昨年度より県平均との差が縮小し、数学Bでは県平均との差が拡大した。

課 題

- 理論的に自分の考えをまとめ、書いて表現し、説明する活動が苦手であること。
- 国語においては、長文から引用する、必要な部分を書き抜くなど、文章を読んで題意をとらえることが苦手であること。
- 算数・数学においては、図形問題で必要な角度や長さを求めるなど、図形の性質を利用して問題を解くことが苦手であること。

(2) 岡山県学力・学習状況調査

数値は平均正答率 (%)

		国 語	社 会	数 学	理 科	4 教科
平成27年度	市	63.5	51.5	65.5	68.5	62.2
	県	62.7	51.6	63.4	65.7	60.9
	県との差	+ 0.8	- 0.1	+ 2.1	+ 2.8	+ 1.3
平成26年度	県との差	+ 0.2	+ 0.6	+ 0.9	+ 1.6	+ 0.8

- 昨年度は4教科ともに県平均を上回っていたが、本年度は社会科が0.1ポイント低く、他の教科は県平均を上回っている。
- 正答数の分布は、県の状況とほぼ同じである。

3 児童生徒質問紙調査から見える本市の特徴（全国学力・学習状況調査より）

<小学校>

- ・ 読書が好きである、新聞を読んでいると答えている児童が、それぞれ全国平均よりも4ポイント以上高い。家で学校の宿題をしている児童の割合も90%以上と多い。
- ・ 家で学校の授業の復習をしていると回答している児童が全国平均より10ポイント以上高い。平日1時間以上学習している児童は67%と全国平均と同程度であるが、休日勉強している時間が1時間以上の児童の割合は50%以下であり、全国平均より7ポイント以上少ない。
- ・ 平日1時間以上携帯電話やスマートフォンを使用して通話やメール、インターネット等をしている児童の割合が2割を超えており、全国平均よりも3ポイント以上高い。
- ・ ノートに学習の目標やまとめを書いていたと回答した児童が全国平均より8ポイント多いなど、目標や振り返りなどを教員が意識すべき授業づくりの基本に関わる項目の肯定的な回答率が全体的にみて高い。

<中学校>

- ・ 将来の夢や目標を持っていると答えている生徒は70%以上と多く、全国平均より3ポイント以上高い。
- ・ 家で学校の宿題はしている生徒は89.9%と全国・県平均よりも多いが、復習をしている生徒は国より12ポイント以上少ない。また、感想文や説明文を書くことに難しさを感じる生徒が全国平均より9%多い。
- ・ 普段（月～金曜日）、学校の授業時間以外に1時間以上勉強をしている生徒は59%と、全国平均より10ポイント少ない。また、土曜、日曜日においても、家での学習が1時間より少ない、または全くしない生徒が40%おり、全国平均より9ポイント以上多い。休みの日には、部活動に取り組む生徒が多く、それ以外には、テレビやビデオを見たり、ゲームをしている生徒が多い傾向が見られる。
- ・ 平日1時間以上携帯電話やスマートフォンを使用して通話やメール、インターネット等をしている児童の割合が52.2%と、全国平均よりも4ポイント以上高い。
- ・ 授業のはじめに目標が示されていた、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと回答した生徒が全国平均より10ポイント以上多い等、教員が意識すべき授業づくりの基本に関わる項目の肯定的な回答率が総じて全国平均より8～13ポイント高い。

課 題

- 宿題をしているにも関わらず家庭での学習時間が少なく、テレビやゲームをしている時間が多い傾向があることから、家庭学習の質や量、教員の点検の在り方、小中学校の連携した指導についての改善、家庭への啓発を図ること。
- 携帯電話やスマートフォンの利用時間が小中学校とも全国平均よりも長いことから、適切な利用について、家庭と連携しながら適切な利用について働きかけること。
- 小中学校とも、授業の目標・まとめなどの授業づくりの基礎について児童生徒が行っていると回答していることから、教員の授業力の向上の取組は一定の成果を挙げていると考えられるため取組を継続するとともに、質を高めるよう働きかけること。